

都市再生整備計画 事後評価シート
黒井駅周辺地区

平成23年3月

新潟県上越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	上越市		地区名	黒井駅周辺地区			面積	669ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	766百万円	国費率	40.20%					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路事業(市道頸城線)、地域生活基盤施設(黒井駅北口広場、黒井駅南口広場、(仮)黒井駅南口駐輪場)										
			提案事業	地域創造支援事業(黒井処理地区下水道本管延長整備事業)、まちづくり活動推進事業(コミュニティバス運行試行事業、パークアンドライド実験事業)										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	削除/追加の理由										
			提案事業	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響										
	新たに追加した事業		基幹事業	黒井処理区下水道本館延長整備事業:下水道事業で実施することとしたため パークアンドライド実験事業:計画期間内に駐車場等が完成しないため										
提案事業			黒井処理区下水道本館延長整備事業:影響なし パークアンドライド実験事業:影響なし											
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		指標2を上方修正							
		変更	平成18年度～平成22年度											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
							モニタリング	評価値						
	指標1	バス利用率	%	7.5	H15	15.0	H22	●●●●●●●●	8.8	○	あり	コミュニティバス運行の効果により利用率は向上したが、目標には届かなかった。	H24年3月頃	
	指標2	黒井駅の乗降客	人/日	434	H16	500.0	H22	●●●●●●●●	488	504	○	あり	コミュニティバス運行の効果により乗降客増につながった。また、駅への関心や愛着が高まったことも利用につながった。	H24年6月頃
	指標3	(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数	台/年	0	H17	28,000.0	H22	●●●●●●●●	0	×	なし	本計画において広場等の整備に向けた用地を確保したことから、次期計画で確実に整備が可能となった。しかし、駐輪場の整備が完了できなかった。	H24年3月頃	
	指標4	地域住民の満足度(生活全般)	%	65.4	H11	90.0	H22	●●●●●●●●	65.9	○	あり	本計画において広場等の整備に向けた用地を確保したことから、次期計画で確実に整備が可能となった。しかし、駅周辺施設の整備が完了できなかった。	H24年3月頃	
指標5	地域住民の満足度(安全に生活する環境)	%	58.9	H11	90.0	H22	●●●●●●●●	69.4	○	なし	満足度は向上したが、地震、交通安全、防犯での視点での満足度を満たすことができなかった。	H24年3月頃		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
							モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	居住世帯の増加	世帯	1,964	H17				2,033	○	あり	道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行などが一定の評価を得た。	H23年4月頃	
	その他の数値指標2	浸水区域面積の減少	m ²	6,300	H17				3,100	○	あり	排水ポンプの設置、側溝切り替えにより浸水被害面積を半減することができた。	H23年4月頃	
	その他の数値指標3	未利用地の解消面積	m ²	6,150	H17				26,947	○	あり	道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行などが一定の評価を得た。	H23年4月頃	
その他の数値指標4	事業完了後の期待	%	-	-				67.1	○	あり	今後のまちづくり事業に対する期待がうかがえる。	H24年3月頃		
4) 定性的な効果発現状況	<p>・地区住民による防災意識が向上し、町内会による自主防災組織の結成が促進された。自主防災組織や町内会では水害時の避難ルートを示した防災マップの作成や、避難訓練、土壌づくり訓練など自主的な防災活動が行われるようになった。</p> <p>・周辺町内会との黒井駅活用についての意見交換会では、駅周辺の整備完了後は広場周辺にプランターによる花の植栽を行いたい、広場を利用して避難訓練を実施したいなど、まちづくり活動への意欲が芽生えてきたほか、住民が自主的にゴミ拾いなどの活動を実施するようになり、「誇り」をもてる駅にしたいという機運が高まった。</p> <p>・懇話会や意見交換会で活発な意見交換ができたことにより、住民と行政のコミュニケーションが円滑となり、これまで無関心であった放置自転車の情報や黒井駅の活用方法、コミュニティバスの運行形態に関する意見などが寄せられるようになった。</p>													
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況								
	モニタリング					今後の対応方針等								
	東日本旅客鉄道株からのデータ収集によるモニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた								
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
住民参加プロセス					バス運行については、今後も市民の意見を聞きながら、効率的で使いやすいバスの運行を行っていく。									
					駅周辺施設については、今後も市民との意見交換会を重ね、利用促進を図るとともに、施設完成後は地元住民に管理をお願いする。									
持続的なまちづくり体制の構築					今後も住民組織の主体的な取り組みを支援していく。									
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

黒井駅周辺地区(新潟県上越市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標：黒井駅を拠点とした駅周辺の一体的整備による交通利便性の向上と暮らしやすいまちの創造 目標1：黒井駅南口の開設及び自由通路の設置による地域の一体性の創出と駅への交通利便性の向上 目標2：鉄道とバスとの連携による交通結節機能の強化 目標3：民間開発の誘導による未利用地の有効利用と賑わいの創出 目標4：住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上	バス利用率	単位： %	7.5 H22	15.0 H22	8.8 H22
	黒井駅の乗降客	単位： 人/日	434 H22	500 H22	504 H22
	(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数	単位： 台/年	0 H22	28,000 H22	0 H22
	地域住民の満足度(生活全般)	単位： %	65.4 H11	90.0 H22	65.9 H22
	地域住民の満足度(安全に生活する環境)	単位： %	58.9 H11	90.0 H22	69.4 H22

まちの課題の変化

- ・コミュニティバスの試験運行が、継続運行になったことにより、駅への交通アクセスが向上し、駅の利用者も僅かであるが増加した。
- ・バスで区域内の各施設(学校、総合事務所、医療機関など公共施設や公益施設)への移動が容易になった。
- ・これまで段差や亀裂などが生じており、事故なども懸念されていたが、今回の事業完了によりこれらの課題が解消され、交通の安全性が向上し快適な走行が可能となった。
- ・黒井駅周辺整備や浸水対策、そしてバスを利用したコミュニティアクセスの向上など都市再生整備計画区域内で事業が完了又は実施されることにより、住宅や事業所、ホテルの建設が行われ、未利用地の解消面積が増加した。
- ・排水ポンプの増設や排水先の変更により、住宅団地内の浸水被害を必要最小限に抑えることが可能となった。また、地元住民による自主防災組織が結成され、防災マップの作成や防災訓練が実施されるようになり、防災意識が向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・現在進めている自由通路整備の早期完成を進めるとともに、速やかに駅前広場、駐車場、駐輪場等の整備に着手できる体制を整える。
- ・未利用地の解消においては、駅周辺の利便性と地域の魅力を前面にPRし、未利用地の解消に努めるとともに、民間の開発を待つだけでなく、行政としても積極的なマーケティングを展開していく。
- ・コミュニティバスの運行で交通の利便性が拡充されたことから、地域資源を活用したソフト事業を充実させ、更なる地域の活性化に努める。
- ・自由通路や広場、駐車場、駐輪場が整備された際は、地元住民が主体となったイベントなどを実施し、PRに努める。
- ・黒井駅に「ほくほく線」が停車できるようJRや北越急行線に働きかけ、運行ダイヤの増加に努める。
- ・地域資源である軽便鉄道「コッペル」等を活用し、これらをルート化することで観光面の強化を図り、市内外からの誘客を促進するほか、鉄道とコミュニティバスを利用した移動をPRしていく。
- ・コミュニティバスについては、より多くの人々が利用できるよう、運行時間、運行経路等の見直しをしていく。
- ・コミュニティバスの運行経路に観光施設や公益施設を設定し、広くPRすることで地区内外の利用者増加を図る。
- ・防災施設は整備が完了したことから、引き続き住民が主体となった防災活動を実施し、「防災」の重要性を再認識するとともに、地域コミュニティの維持に努める。
- ・安全安心な生活環境を整えるため、狭隘道路の解消やカーブミラーの設置、防犯灯の設置、自転車の盗難防止対策など交通安全、防犯の視点での強化も図っていく。

都市再生整備計画 事後評価シート

(添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標				「目標4:住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上」を追加	局地豪雨による住宅地の浸水被害発生課題を受け、その解消を目標に追加した。
B. 目標を定量化する指標				「指標5:地域住民の満足度(安全に生活する環境)」を追加	目標に追加した「住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上」の成果を定量化するため、指標を追加した。
C. 目標値			指標2:黒井駅の乗降客:450人/日	指標2:黒井駅の乗降客:500人/日	モニタリングの結果、コミュニティバス運行の実施等により平成18年度に当初の目標をクリアしたことから、さらなる利用増が期待できる。
D. その他(交付期間)			交付期間:平成18年度～平成21年度	交付期間:平成18年度～平成22年度	鉄道事業者との協議、調整に時間を要し、平成21年度内に計画事業を完了することができなくなったため、交付期間を平成22年度までとした。

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道頸城線	36.0	L=630m(改築)	35.0	L=615.4m(改築)	舗装構成の変更、道路延長の精査による事業費、延長の減	影響なし		
道路	市道上吉1号線	-	-	4.9	L=108m(改築)	市民要望による事業追加	この事業の追加により、目標4、指標5を追加した。		
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	黒井駅北口広場	237.0	A=800㎡	40.8	A=1,600㎡	広場レイアウト見直しによる面積増 駐車場、駐輪場の事業切り分け	交通利便性の向上に関連するため、黒井駅の乗降客目標を上方修正した。		
地域生活基盤施設	黒井駅南口広場	177.0	A=2,900㎡	73.1	A=2,770㎡	駐車場、駐輪場の事業切り分け	影響なし		
地域生活基盤施設	黒井駅北口駐車場	-	-	2.2	A=310㎡	広場からの事業切り分け	影響なし		
地域生活基盤施設	黒井駅南口駐車場	-	-	14.6	A=670㎡	広場からの事業切り分け	影響なし		
地域生活基盤施設	黒井駅北口駐輪場	-	-	6.3	A=220㎡	広場からの事業切り分け	影響なし		
地域生活基盤施設	黒井駅南口駐輪場	40.0	4棟(195台)	8.7	A=330㎡	広場からの事業切り分けと北口広場への振り分け、上屋の廃止	影響なし		
地域生活基盤施設	下吉排水ポンプ	-	-	32.0	N=1基	市民要望による事業追加	この事業の追加により、目標4、指標5を追加した。		
高質空間形成施設	黒井駅自由通路	-	-	530.5	L=52.5m W=3.0m	関連事業からの移行	影響なし		
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

¹：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	バス利用率	%	平成22年9月、地区住民1,600世帯に調査用紙を配布し、世帯員の路線バスの利用状況において、週1回以上利用する人の割合を算定し、評価値(見込み値)とする。	-	-	7.5	H15	15.0	H22	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	8.8	事後評価		
指標2	黒井駅の乗降客	人/日	平成21年度の平均乗降客数と過去4年間(平成18年度から平成21年度)のデータを基に平成22年度の乗降客数を推計し、評価値(見込み値)とする。	328	H8	434	H16	500	H22	モニタリング	H18	488	モニタリング		
										事後評価	確定見込み	504	事後評価		
指標3	(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数	台/年	評価基準日における駐輪場の供用開始台数と、6月中の1週間における黒井駅周辺の自転車等の駐輪台数から、評価値を推計し、評価値(見込み値)とする。	-	-	0	H17	28,000	H22	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	0	事後評価	×	
指標4	地域住民の満足度(生活全般)	%	平成22年9月、地区住民1,600世帯を対象とした満足度調査を行い、評価値を算定し、評価値(見込み値)とする。	-	-	65.4	H11	90.0	H22	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	65.9	事後評価		
指標5	地域住民の満足度(安全に生活する環境)	%	平成22年9月、浸水被害発生地区住民1,000世帯を対象とした満足度調査を行い、評価値を算定し、評価値(見込み値)とする。	-	-	58.9	H11	90.0	H22	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み	69.4	事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込みありとした場合、その理由も含む)	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
指標1	従前値を倍増させることを目指し、公共施設や駅を結ぶコミュニティバスを運行し、公共交通としてのバス利用率の増を期待したが、目標値には届かなかった。しかし、バス利用者が年々減少傾向にある中、従前値よりも3.3ポイントの伸びがあったことや、黒井駅線の利用者が横ばいを維持できていることは評価できる。	
指標2	駅周辺施設の整備が完了できなかったが、公共施設や駅を結ぶコミュニティバス運行が効果を発揮したことにより、目標を達成することができた。	
指標3	自由通路の整備事業の遅れが原因し、計画期間内に駐輪場の整備が完了できなかった。しかし、駅周辺の広場には平日で平均150台以上の自転車が置かれており、整備完了後の目標達成の可能性は大きいと判断した。	
指標4	従前値が決して低い値ではなかったため、地域住民の9割が満足を感じられる環境を目指していたが、自由通路整備事業の遅れから駅周辺の整備が完了できなかったことが一因と考えられる。	
指標5	地域住民の9割が満足を感じられる環境を目指していたが、目標には届かなかったが、10ポイント以上満足度が改善されたことは評価できる。しかし、住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの事業は完了しており、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年前程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度			確定	見込み			
その他の数値指標1	居住世帯の増加	世帯	平成22年8月31日時点における住民基本台帳の地区別世帯集計表から計画区域にかかる町内会の世帯数を抽出し、集計。	-	-	1,964	H17	モニタリング			駅前広場や自由通路の整備がすべて完了していないが、道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行による効果はあったと思われ、暮らしやすさの向上を説明する。	指標4、指標5を補完して、暮らしやすいまちの創造を説明する。
								事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2	浸水区域面積の減少	㎡	7年確率降雨(平均降雨強度47.6mm/h)を基に流量計算を行い、樋門閉鎖後の浸水量を算定し、排水路流域の浸水区域面積を推計。	-	-	6,300	H17	モニタリング			排水ポンプ及び側溝の整備に伴う効果として、排水路流域の浸水量が減少し、浸水被害を軽減することができ、住宅団地内の浸水被害解消による安全安心のまちづくりの向上を目標とした事業の成果を説明する。	指標5を補完して、安全安心のまちづくりの向上を説明する。
								事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3	未利用地の解消面積	㎡	都市計画法にかかる許可申請により、計測時点から過去5年間(平成18年4月から平成22年9月末時点まで)に計画区域内において住宅や事務所等が新規に建設され、未利用の状態が解消した土地の累計面積を算出。	-	-	6,150	H17	モニタリング			駅前広場や自由通路の整備がすべて完了していないが、道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行による効果はあったと思われ、暮らしやすいまちの創造、賑わいの創出を説明する。	指標1、指標4、指標5を補完して、暮らしやすいまちの創造、賑わいの創出を説明する。
								事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標4	事業完了後の期待	%	平成22年9月、地区住民1,600世帯を対象に、黒井駅周辺施設や自由通路の整備が完了した場合のまちづくり満足度を「満足」「まあ満足」「やや不満」「不満」の4段階で評価してもらい、「満足」「まあ満足」と評価した人の割合を算出。	-	-	-	H17	モニタリング			駅前広場や自由通路の整備がすべて完了した場合のまちづくりの満足度を把握することで、事業の方向が住民の期待に合致していることを確認するとともに、暮らしやすいまちの創造、賑わいの創出を説明する。	指標2、指標4、指標5を補完して、暮らしやすいまちの創造、賑わいの創出を説明する。
								事後評価	確定	見込み		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・地区住民による防災意識が向上し、町内会による自主防災組織の結成が促進された。自主防災組織や町内会では水害時の避難ルートを示した防災マップの作成や、避難訓練、土囊づくり訓練など自主的な防災活動が行われるようになった。

・周辺町内会との黒井駅利活用についての意見交換会では、駅周辺の整備完了後は広場周辺にプランターによる花の植栽を行いたい、広場を利用して避難訓練を実施したいなど、まちづくり活動への意欲が芽生えてきたほか、住民が自主的にゴミ拾いなどの活動を実施するようになり、「誇り」をもてる駅にしたいという機運が高まった。

・懇話会や意見交換会で活発な意見交換ができたことにより、住民と行政のコミュニケーションが円滑となり、これまで無関心であった放置自転車の情報や黒井駅の活用方法、コミュニティバスの運行形態に関する意見などが寄せられるようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
東日本旅客鉄道㈱からのデータ収集によるモニタリング	予定どおり実施した	[実施頻度] 毎年度1回 [実施時期] 毎年度6月	モニタリング同様に毎年度、データ収集により確認する。
	予定はなかったが実施した	[実施結果] 採用した指標は東日本旅客鉄道㈱により毎年度、数値が整理されているものであるため、平成18年度(平成19年6月)の結果をみて目標値の適正化を図ることができた。また、事業の年度別による効果を確認することができた。	
	予定したが実施できなかった(理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
頸城区地区公共交通懇話会	予定どおり実施した	[実施頻度] 計8回 [実施時期] 平成20年度～平成22年度	今後も市民の意見を聞きながら、効率的で利用しやすいバスの運行を行っていく。
	予定はなかったが実施した	[実施結果] 試行運行の結果を受け、試行路線だけでなく区内全域のバス運行コース、ダイヤの見直しや運賃について住民の意見を聞きながら見直しを行うことができた。	
	予定したが実施できなかった(理由)		
黒井駅南口整備意見交換会	予定どおり実施した	[実施頻度] 1回 [実施時期] 平成21年度	今後も市民との意見交換会を重ね、利用促進を図るとともに、施設完成後は地元住民に管理をお願いする。
	予定はなかったが実施した	[実施結果] 黒井駅周辺整備の工事概要を説明するとともに、整備後の利用や管理について意見交換を行ったため、円滑に工事を進めることができたほか、今後の利用促進や施設管理への協力関係を構築することができた。	
	予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
事業終了後は住民組織、関係団体と連携しながら、暮らしやすい住環境づくりを進めるとともに、駅前の広場を活用したイベントの実施など、住民が主体となった事業の展開を進めていく。	予定どおり実施した	・住民組織であるくびき振興会から主体となってもらい、夏祭りイベント、敬老会、スポーツフェスティバル、文化祭などを継続して実施した。	・くびき振興会(頸城区全域を網羅した組織で、区全体にかかわる事業を実施。傘下に地区振興会がある。) ・南川振興会(頸城区西部地域の住民で組織し、地域のまちづくりを展開している。)	今後も住民組織の主体的な取り組みを支援していく。
	予定はなかったが実施した	・南川振興会で防災訓練を毎年継続して実施した。		
	予定したが実施できなかった(理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(頸城区総合事務所、都市整備課、河川海岸砂防課、道路課、新幹線・交通政策課)	第1回 平成22年10月7日 第2回 平成22年11月1日 全2回	頸城区総合事務所(交付金担当課)

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指標名		黒井駅の乗降客		居住世帯の増加		浸水区域面積の減少		未利用地の解消面積	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道頸城線)	-	コミュニティバスの運行により、駅の利用が促進されたほか、事業計画の説明等により、黒井駅に対する関心や愛着が高まったことも副次的な効果である。	-	すべての施設の完成には至っていないが、道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行など、交通利便性の向上や暮らしやすいまちづくりを目指した取り組みが評価されたものと考えられる。	-	排水ポンプの設置、側溝切り替えにより浸水被害面積を半減することができた。また、3,100㎡の浸水面積があるが、算定の結果、浸水深が17cmから11cmに下がり、道路冠水程度に収まる結果となった。	-	すべての事業の完成には至っていないが、道路や排水ポンプの整備、コミュニティバス運行など、交通利便性の向上や暮らしやすいまちづくりを目指した取り組みが評価されものと考えられる。特に住宅団地内をバス路線に入れた効果が大きい。
	道路(市道上吉1号線)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅北口広場)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅南口広場)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐車場)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐車場)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐輪場)	-							
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐輪場)	-							
	地域生活基盤施設(下吉排水ポンプ)	-							
高質空間形成施設(黒井駅自由通路)	-								
提案事業	コミュニティバス運行試行事業	-							
		-							
		-							
関連事業	黒井処理地区下水道本管延長整備事業	-							
		-							

指標改善への貢献度

- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も市民とともに黒井駅の重要性を認識しながら、活発な意見を交わし、利用促進を図る。	施設を早期に完成させ、交通利便性の向上と暮らしやすいまちを目指す。	住民の防災意識の高揚を図るための活動を促進する。	ハウスメーカー等に積極的に未利用地情報を提供し、解消を図る。
-------	--	-----------------------------------	--------------------------	--------------------------------

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標4					
指標名		整備完了後の期待					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道頸城線)	---	黒井駅周辺施設や自由通路の整備が完了した場合のまちづくり満足度を確認したところ、「満足」「まあ満足」を合わせて67%以上あり、今後のまちづくりに対する期待の高さがうかがえる。	---		---	
	道路(市道上吉1号線)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅北口広場)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅南口広場)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐車場)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐車場)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐輪場)	---					
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐輪場)	---					
	地域生活基盤施設(下吉排水ポンプ)	---					
高質空間形成施設(黒井駅自由通路)	---						
提案事業	コミュニティバス運行試行事業	---		---		---	

関連事業	黒井処理地区下水道本管延長整備事業	---		---		---	

指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	施設を早期に完成させ、交通利便性の向上と暮らしやすいまちを目指す。			
-------	-----------------------------------	--	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3			指標4			指標5		
指標名		バス利用率			(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数			地域住民の満足度(生活全般)			地域住民の満足度(安全に生活する環境)		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道頸城線)	-	公共施設や駅を結ぶコミュニティバスの運行により、公共交通としてのバスの利用増を期待したが、十分な効果が発揮できなかった。しかし、バス利用者が年々減少傾向にある中、黒井駅線の利用者は横ばいを維持できていることは評価できる。		-	本計画において南北駅前広場等の整備に向けた用地を確保したことから、次期計画で確実に整備が可能となった。しかし、鉄道事業者との協議、調整にこのほか時間を要し、自由通路の整備事業が当初計画どおりの事業進捗を図ることができなかった。このことにより、作業ヤードとして使用していた駅前広場、駐車場、駐輪場も整備が完了できなかった。		-	本計画において南北駅前広場等の整備に向けた用地を確保したことから、次期計画で確実に整備が可能となった。しかし、鉄道事業者との協議、調整にこのほか時間を要し、自由通路の整備事業が当初計画どおりの事業進捗を図ることができなかった。このことにより、作業ヤードとして使用していた駅前広場、駐車場、駐輪場も整備が完了できなかった。		-	地域の課題から、水害対策に重点を置いた事業を行ったが、交通安全、防犯などの視点での満足度を満たすことができなかった。しかし、10ポイント以上満足度が改善されたことは評価できる。	
	道路(市道上吉1号線)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅北口広場)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅南口広場)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐車場)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐車場)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅北口駐輪場)	-											
	地域生活基盤施設(黒井駅南口駐輪場)	-											
	地域生活基盤施設(下吉排水ポンプ)	-											
高質空間形成施設(黒井駅自由通路)	-												
提案事業	コミュニティバス運行試行事業	-			-			-			-		
		-			-			-			-		
		-			-			-			-		
		-			-			-			-		
関連事業	黒井処理地区下水道本管延長整備事業	-			-			-			-		
		-			-			-			-		

目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類

- 分類: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	バス利用促進のPRを強化するほか、市民の意見を聞きながら、運行経路やダイヤの検討を行う。また、市民がバスを利用したくなるよう、スタンプラリー等の実施を検討する。	鉄道事業者との協議には非常に時間がかかるため、十分な下打ち合わせを行い、駐輪場の早期完成を図る。	鉄道事業者との協議には非常に時間がかかるため、十分な下打ち合わせを行い、駅周辺施設の早期完成を図るほか、市街地へのアクセス道路の整備など生活環境の整備充実を図っていく。	安全に生活する環境を整えるため、狹隘道路の解消やカーブミラーの設置、防犯灯の設置、自転車の盗難防止対策など交通安全、防犯の視点での強化も図っていく。
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価検討チーム)	関係課の係長級職員(頸城区総合事務所、都市整備課、河川海岸砂防課、道路課、新幹線・交通政策課)	第1回 平成22年10月7日 第2回 平成22年11月1日 全2回	頸城区総合事務所(交付金担当課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
鉄道で分断された地域の一体化と駅の利便性向上、バスと鉄道の連携による交通結節点としての機能強化	・コミュニティバスの試験運行が、継続運行になったことにより、駅への交通アクセスが向上し、駅の利用者も僅かであるが増加した。 ・バスで区域内の各施設(学校、総合事務所、医療機関など公共施設や公益施設)への移動が容易になった。	・自由通路が完成しておらず、鉄道による分断が未だ生じているため、早期の完成が必要である。 ・自由通路に付随する駅前広場、駐車場、駐輪場も利便性を高めるために必要な施設であるため、同様に早期完成が必要である。	<p>これまで、課題解決に向けて施設整備などハード面を中心に事業を展開してきたが、その後の運営や維持管理、有効活用の方策を検討していく必要が生じた。(黒井駅が誰でも気軽に利用できるよう案内看板の設置と、頸城の観光スポットが一目で分かるパンフレットや看板、HP作成やコミュニティバスの乗降場所周辺の見所スポット表示など)</p> <p>・自主防災組織の結成により、消防団員の減少が見受けられる町内会が明らかになったことから、隣接町内会と連携した消防団員確保の必要がある。</p> <p>・意見交換で、世代によっては地域コミュニティの希薄化が懸念されてきていることに気付かされたことから、地域の「絆」を再生していく必要が感じられた。</p>
生活幹線道路である市道頸城線の早期改良	・これまで段差や亀裂などが生じており、事故なども懸念されていたが、今回の事業完了によりこれらの課題が解消され、交通の安全性が向上し快適な走行が可能となった。		
未利用地の有効活用	・黒井駅周辺整備や浸水対策、そしてバスを利用したコミュニティアクセスの向上など都市再生整備計画区域内で事業が完了又は実施されることにより、住宅や事業所、ホテルの建設が行われ、未利用地の解消面積が増加した。	・自由通路や広場など駅周辺での施設が完成できなかったことにより、黒井駅周辺の未利用地が多く残されているため、施設の早期完成に努め、民間開発の誘導を進める必要がある。	
住宅団地内への大雨や豪雨による浸水被害の減少	・排水ポンプの増設や排水先の変更により、住宅団地内の浸水被害を必要最小限に抑えることが可能となった。 ・地元住民による自主防災組織が結成され、防災マップの作成や防災訓練が実施されようになり、防災意識が向上した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	黒井駅利用者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 自由通路や広場、駐車場、駐輪場が整備された際は、地元住民が主体となったイベントなどを実施し、PRに努める。 黒井駅に「ほくほく線」が停車できるようJRや北越急行(株)に働きかけ、運行ダイヤの増加に努める。 地域資源である軽便鉄道「コッペル」等を活用し、これらをルート化することで観光面の強化を図り、市内外からの誘客を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒井駅前広場を会場としたフリーマーケット等の開催 観光案内看板整備事業 など
	バス利用者の維持	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人が利用できるよう、運行時間、運行経路等の見直しをしていく。 地域資源である軽便鉄道「コッペル」等を活用し、これらをルート化することで観光面の強化を図り、市内外からの誘客を促進するほか、鉄道とコミュニティバスを利用した移動をPRしていく。 コミュニティバスの運行経路に観光施設や公益施設を設定し、広くPRすることで地区内外の利用者増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光回遊事業(頸城の魅力再発見…軽便鉄道「コッペル」、瀧本邸、希望館、B & G海洋センターなど) コミュニティバスを利用したスタンプラリー 各停留所への観光案内看板整備事業 など
	安全安心まちづくりの継続	<ul style="list-style-type: none"> 防災施設は整備が完成したことから、引き続き住民が主体となった防災活動を実施し、「防災」の重要性を再認識するとともに、地域コミュニティの維持に努める。 安全安心な生活環境を整えるため、交通安全や防犯の視点での強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災活動事業(避難訓練、消防団員養成など) 調整池環境整備事業(清掃) 狭隘道路の解消、カーブミラー設置、防犯灯整備、自転車の盗難防止対策実施 など

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	黒井駅周辺施設の早期完成	<ul style="list-style-type: none"> 現在進めている自由通路整備の早期完成を進めるとともに、速やかに駅前広場、駐車場、駐輪場等の整備に着手できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高質空間形成(自由通路)、南北駅前広場整備、南北駐車場及び駐輪場整備
	黒井駅周辺の未利用地の解消	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の利便性と地域の魅力を前面にPRし、未利用地の解消に努める。 民間の開発を待つだけでなく、行政としても積極的なマーケティングを展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等への誘致活動事業(パンフレット、HPの作成や訪問誘致)
	ソフト面の拡充	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの運行で交通の利便性が拡充されたことから、地域資源を活用したソフト事業を充実させ、更なる地域の活性化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> くびき巡回バスの旅企画(各々の停留所周辺やルート上の魅力を紹介するツアー)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・本都市再生整備計画区域内には、いろいろな観光資源が埋もれている。(例として、B & G海洋センター、希望館、軽便鉄道「コッペル」、瀧本邸、坂口記念館などの施設やくびきの森、コミュニティバスルートから眺める保倉川沿いの景観など。)そのため、コミュニティバスを有効に活用した観光周遊ルートの確立が今後の地域の活性化に有効であると考えます。

・施設を有効に活用するため、地元住民の熱意の協力がなくては成り立たない。そのため、地域の愛着度を高めるために、「住民が積極的にまちづくりに参加し関わっていく」ことが必要である。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
				年度		年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	バス利用率	%	7.5	H15	15.0	H22	確定	8.8		あり	→	平成24年3月	町内会の協力を得て、地区住民1,600世帯を対象としたアンケート調査により数値を把握し、確定値とする。	
							見込み			なし				
指標2	黒井駅の乗降客	人/日	434	H16	500	H22	確定	504		あり	→	平成24年6月	東日本旅客鉄道(株)で平成24年6月に集計完了予定の平成23年度の黒井駅の乗降客数を把握し、確定値とする。	
							見込み			なし				
指標3	(仮)黒井駅南口駐輪場の年間利用台数	台/年	0	H17	28,000	H22	確定	0	×	あり	→	平成24年3月	1週間の駐輪台数を基に、駐輪場の利用期間を4月から12月までと想定して年間利用台数を推計し、確定値とする。	
							見込み			なし				
指標4	地域住民の満足度(生活全般)	%	65.4	H11	90.0	H22	確定	65.9		あり	→	平成24年3月	町内会の協力を得て、地区住民1,600世帯を対象としたアンケート調査により数値を把握し、確定値とする。	
							見込み			なし				
指標5	地域住民の満足度(安全に生活する環境)	%	58.9	H11	90.0	H22	確定	69.4		あり	→	平成24年3月	町内会の協力を得て、浸水被害地区住民1,000世帯を対象としたアンケート調査により数値を把握し、確定値とする。	
							見込み			なし				
その他の数値指標1	居住世帯の増加	世帯	1,964	H17	/	/	確定	2,033	/	/	→	平成23年4月	平成23年3月31日時点における住民基本台帳の地区別世帯集計表により数値を把握し、確定値とする。	
その他の数値指標2	浸水区域面積の減少	㎡	6,300	H17	/	/	確定	3,100	/	/	→			
							見込み			/				
その他の数値指標3	未利用地の解消面積	㎡	6,150	H17	/	/	確定	26,947	/	/	→	平成23年4月	都市計画法にかかる許可申請から、計画区域内において未利用の状態が解消した土地の面積を集計し、確定値とする。	
							見込み			/				
その他の数値指標4	事業完了後の期待	%	-	-	/	/	確定	67.1	/	/	→	平成24年3月	町内会の協力を得て、地区住民1,600世帯を対象としたアンケート調査により数値を把握し、確定値とする。	
							見込み			/				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・一部指標でモニタリングを実施したことにより、交付期間途中で事業の効果を確認することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年データが算出できる指標を設定するとモニタリングが容易になるため、指標を設定する際には計測のことも考慮して検討することが望ましい。 ・安易に高い目標値を定めることは、事業の評価に影響するため、適正な目標値を設定する必要がある。 ・モニタリングを行い、目標値の修正も必要である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場年間利用台数を指標にあげていたが、未完成であったため達成されなかったほか、駐輪場整備が駅の利便性向上と放置自転車の減少に結びつくかどうか検証できなかった。 ・高すぎる目標値の設定があったと考えられる。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。 ・目標達成のためにはハード事業とソフト事業を組み合わせる必要がある。特に、住民アンケートによる満足度のような指標の場合は、ハード事業だけでは成果は上がらない。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいの創出を目標に掲げていたが、成果の達成を確認する指標の設定が不十分であった。 ・目標達成のための事業がハード中心となってしまい、さらに計画期間内に完成できない事業が多くなってしまったため、数値目標に大きく影響する結果となってしまった。 	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見を聞きながら、バス運行経路やダイヤの見直しを行うことができ、より効率的で利便性の高い運行に結び付けることができた。 ・住民との意見交換会により、駅周辺施設への関心を持ってもらうことができ、住民の手による環境美化活動に結び付いた。 ・事業の実施により防災意識が高まり、自主防災組織の結成が促進され、水害時の避難経路マップを作成するまでになった。 ・懇話会や意見交換会で活発な意見交換ができたことにより、住民と行政のコミュニケーションが円滑となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も市民に適切な情報提供を行うとともに、市民と議論を重ねながら事業を進める必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業者との協議にあたり内容が不明確な部分が多かったことから、事業進捗の情報を的確に住民に伝えることができなかった。 	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・一部採用した指標は、毎年算出できるデータであったことから、交付期間中に目標値を容易に変更することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中のモニタリング実施は、事業の進捗を適宜把握するためにも有効である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が予定どおり進捗できなかったことから、中間モニタリングが実施できず事業途中の客観的評価ができなかった。 	
その他	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会実験」は、結果によりその後の取り扱いが左右されるが、今回は、一定の成果がありコミュニティバスの試行運行を常設化につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを進める上で、本格運用する前にその事業の効果や課題を確認できることから、「社会実験」「イベント」などを試行していくことは重要である。 ・鉄道事業者が関係する事業においては、事前に十分な協議が必要である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業者との協議、調整にこのほか時間を要し、当初の計画どおりに事業の進捗を図ることができなかった。 	

添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定
 黒井駅周辺施設が完成されていないことから、早期完成・供用が必要である。そのため、第一期の経験踏まえて、次期都市再生整備計画の作成に活かしていく。

・今後、事後評価を予定する地区
 当市は、現在6地区で事業を実施している。平成22年度に当地区のほか、高田雁木通り地区において事後評価を実施予定。また、平成23年度には北陸新幹線(仮)上越駅周辺地区において事後評価を実施予定。今年度実施する事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい考え。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月8日～11月22日	平成22年11月8日～11月22日	担当課への 郵送、FAX、電子メール	頸城区総合事務所 (交付金担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び 担当課窓口で原案を公表して いる旨を掲載	平成22年11月1日発行 広報11月号	平成22年11月8日～11月22日		
説明会・ワークショップ					
その他	窓口閲覧	平成22年11月8日～11月22日	平成22年11月8日～11月22日		

住民の意見	・意見なし。
-------	--------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	青木 ユキ子 エコグリーン代表 斎京 稔 上越信用金庫会長(欠席) 中出 文平 長岡技術科学大学教授 羽尾 美子 国際ソロプチミスト会員(欠席) 保坂 桂子 (株)アルゴス社員	平成22年11月25日(木)	頸城区総合事務所 (交付金担当課)	上越市都市再生整備計画評価委員会設置要綱	既存組織を改めて委員に委嘱
その他の委員	宮下 好文 新潟県上越地域振興局長				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標の4、5で「地域住民の満足度」を指標としているが、この中身をもう少し具体的に評価できるような設定をしたほうがよいのではないかと。 また、区域外の住民の満足度や賑わいの部分を評価の中に入れることで、より効果をアピールできるのではないかと意見があった。 ・自主防災組織の結成が進んだということであれば、定性的な効果の発現だと思われるので、追記したほうがよいとの意見があった。 ・未利用地の解消面積について、適正に抽出できていないのではないかと意見があったが、計測方法を説明し委員の理解を得た。
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・目標を達成できなかった指標の効果発言要因として、整備が完了していないことのほか、地震、交通安全、防犯の視点での満足度を満たすことができなかったと整理しているが、もう少し具体的に分析していくことで今後の見通しの中で、何が足りなかったかということも具体的に出てくるのではないかと意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・このような計画ではハード事業も大事だが、その後そこに住む住民がどのように変わっていったか、活性化していったかということのほうが重要な点だと思う。その点でソフト面の評価も出るような指標の設定があってもよいと思うとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・コミュニティバスの運行については、本来、補助金等でなく運行できる仕組みが成立していなければならないと思うが、市の補助路線のバス業者に補助している程度の赤字であるならば、今後も続けていくことが大切であるとの意見があった。 ・地域住民の満足を満たすことができなかった要因をどう具体化していくのかということが、二期計画に向けて重要になってくるのではないかと意見があった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考してください。